

みくびびだより

平成15年12月1日

御首神社社務所



御挨拶

謹啓 師走の候、皆様方におかれましては愈々御健勝の事とお慶び申し上げます。

天皇皇后両陛下におかせられては、今年も八月十五日の終戦記念日に日本武道館で行われた、恒例の政府主催「全国戦没者追悼式」に御臨席になられ、全国戦没者のご霊前で黙禱を捧げられました。

引き続き天皇陛下より「ここに歴史を顧み、戦争の惨禍が再び繰り返されないことを切に願ひ、全国民と共に戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります」とのお言葉がありました。しかしながら近年国外では、バリ島やイラクでのテロ事件、北朝鮮の核問題など、平和とは程遠い現状であります。天皇陛下のお言葉の中にもありますように、世界中の人々がこころを一つにして、真の平和が一日も早く訪れることを祈るばかりであります。

又、国内では異常気象（冷夏）で、米作が十年ぶりの不作に見舞われ、特に北海道・青森・岩手・宮城の四県が著しい不作との報道、そして九月二十六日には十勝沖で震度六の地震が発生し、北海道太平洋岸東部を中心に多大な被害をもたらし、釧路や帯広など多くの神社の鳥居・灯籠など、石造物倒壊の被害が続出いたしました。被災者の方々には心よりお見舞いを申し上げますと共に一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、本年も残すところあと一ヶ月となりましたが、今年を振り返ってみますと、国内外を問わず暗い事件の多い年でありました。来る平成十六年は少しでもよい年でありたいと懇願いたす次第です。

最後になりましたが皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

『欲望と信仰』

人間の身体は一切神さまから授かったものであり、どんな人間にも心と身体があります。その心は目には見えないし、身体とは働きが違う全く異質なものであります。身体も健康であれば自由に働いてくれますが、ケガをして寝込めばベッドから下りることも出来ないし、お腹をこわせば美味しいものも食べられない。そんな時でも心は自由ですから、目を閉じて世界一周をする空想も出来るし、恋人の姿を思い起こして自分を慰めることも出来ます。心は身体のように時間と空間にしばられるということがない。従って心の働きは自由といつてよいでしょう。人間はこの自由な心と、不自由な身体でもってこめ世を生きてゆく訳ですが、これを船にたとえれば、身体が船で心が舵のようなものであります。海のはてには幸福がある



としよう。そして神さまは「この海の向こうに幸福がある。あなたに船を貸してやるから上手に舵をとって幸福をつかみなさい」といつておられるような気がいたします。

心が自由とはいふものの、好きなように放任すればヒモの切れた凧のようにどこまでも飛んでいってしまう。心を自由にさせておくと危険であり、やがては不幸になるという不安が内在しているのです。心は自由なものだけにこのような無秩序と混乱を無限に引き起こす可能性がある訳です。しかし反面、理性の働きによってよい方向に進んでゆく可能性も持っている。このように心というものは誠に複雑で奇妙なものであります。

普通我々が意識をする部分を顕在意識と呼び、意識しない部分を潜在意識と呼んでいます。美味しいものが食べたいとか、すてきな外国旅行がしたいというような心の働きはすぐに分かりますが、潜在意識はそうはいかない。例えば寝言のなかで、日頃は親しくしている人を、無茶苦茶に罵倒したりして周囲の人間を驚かすことがあります。目が醒めてから本人に聞いても全然記憶が無い。睡眠中など、抑制がゆるんだ時に意識の底に隠れていた怒りが出てきたもので、隠された本心とも理解出来ます。

人間普段は、顕在意識の範囲で社会生活を営んでいて、理性でもって秩序を守るとか、倫理・道徳が優先いたします。しかし、理性にしても道徳にしても、これらは非常に堅苦しいものですから、それに反発しようとする衝動が自分自身の中に生じてくる。これを本能ともいいましょうか。本能とは人間が生きてゆくこうとする欲望即ち、食欲とか性欲とか動物一般に共通した欲望で、道徳或いは善悪以前の原始的なものであります。

宗教ではこの本能から生じた欲望を悪の根元だと考えるのです。特にキリスト教や仏教では禁欲主義をとり、欲望をできるだけ遠ざけようとするのです。欲望を本能の赴くままに放任すれば、人間の世界は闘争の世界と化し、平和は失われてその結果、一方或いは両方とも傷つき倒れてゆく。その果てに到達するのは幸福ではなく死

であり破滅であります。

ところで、世間一般の人々は素直に欲望を肯定して生きています。欲望を肯定し、それを満たすことを求めて生きてゆく人間が実に多い。お金を儲けたいという物欲を否定する者はいないし、性欲を否定したら、この世の中はみな独身者ばかりになってしまう。食欲を否定したら健康な人は病気になる、子供も成長が止まってしまいます。そうしますと、この世は欲望の上に成り立っていることになりました。欲望はもともと自己中心的であり、相手の立場などかまってはおれないという傾向が根底にあります。そして次から次へと湧いてくる泉のようなもので、いつまでも無くならないので、絶えず充足を求めながら満たされることの少ない飢えた狼のようなものです。

現代の難病といわれる「癌」ですが、ガンとは人間の体内に生じた反乱軍であります。身体全体のことなど少しも考えないで、自分だけがどんどん大きくなってゆくので全く困ったものです。欲望にもガンに似た性格があります。自分ばかり勝手なことを主張して満足を追求め、その挙げ句は身体全体を破滅させてしまう。

しかし、よくよく考えると欲望は人間がつくったものではないのです。人間が神さまによってつくられ、神さまの働きによって生きている以上、欲望も神さまの働きによるものでしょう。その欲望が絶対に幸福を保証しないのであれば、神さまは欲望を人間に与える筈はないと思う。欲望は悪の根元、不幸の根元であるとかかりはいえないし、その反面欲望の充足にむかって進むことによつて人間が成長し、幸福をつかむことも出来るのですから、欲望を一切否定する訳ではありません。ただその中に潜む、あまりにも自己中心的なものを改めることが出来れば、欲望が幸福の邪魔をすることもないし、喜びを生むことが出来る訳です。

「欲望との共存」これは容易には達成出来ないものですが、しかし自己中心の欲望を抑制して、そこから神さまの教えに生きてゆく生活に転換してゆけば、禁欲をしなくても幸福で明るい通が開けてくる。これが信仰ではないかと思うのです。 禰宜 上松 雅之

ちよつと一言

受付で代理の方が「祈祷を受けたいと申しております。歩行が困難な為、車椅子ですがご祈祷できますでしょうか」こんなお尋ねがよくございます。

当社社では、事椅子にお乗りになったままで拝殿（祈祷場所）に上がることは、階段などの障害物があり、付き添いの方がお見えになつても大変です。従つて遥拝所（ようはいじよ）にて御祈祷をお仕えさせて頂いております。

遥拝所とは、本殿から離れたところから、おろがむ（おまいりする）場所のことです。

当神社の遥拝所は、平成の御大典記念事業として、平成二年に境内参道西側に完成いたしました。以来、毎日大勢のお方がおまいりをされています。

近年は多数の人がこの遥拝所でご祈祷をお受けになっています。又、車で遥拝所前迄行けますので、降車が困難な方でも、車にお乗りになったままで御祈祷をさせて頂きます。

拝殿と遥拝所とは場所こそ違いますが、御神徳は何ら変わりがございます。そのような折には、遠慮なく社務所へお申し出になつて下さい。

権禰宜 大野 弘樹



祭事報告

▼西宮神社例祭(相殿) 七月 十七日午後三時
 ▼末廣稻荷神社例祭 八月 十日 午後三時
 ▼夏越大祓 八月 十日午後三時半

前日の大雨とはうって変わり、太陽が照りつける猛暑の中、多くの御参列を得て夏越大祓の神事が厳肅に斎行され、日々知らず知らずのうちに受け犯している罪や穢・災厄を払い清めていただきました。

引き続きましてお祓い所役を先頭に宮司以下祭員・総代・一般参列者の順に茅の輪をくぐり、皆様方が諸々の罪・穢を託されました人形(ひとがた)を忌火にてお焚き上げ致しました。



▼長寿祈願祭 九月 十五日午後四時
 平成五年から行われてきた長寿祈願祭も今年で十一年目となりましたが、宇留生地区の長寿会連合会を中心に書寿以上の方々にも多数御参列して頂きました。

▼神明神社例祭 十月 十七日午後三時
 ▼七五三参り 十一月一日～三十日
 七五三参りは、子供が三歳・五歳・七歳を無事に迎えられたことを神様に感謝申し上げます。これから先の健やかな成長を願うものであり、これからの先年の健やかな成長を願うものでもあります。その昔はこの年齢まで無事に成長するというのが難しい時代もありました。

現在でもこの人生儀礼は受け継がれ、十一月の各週末ともなると、全国の各神社は大賑わいを見せますが、当社でも晴れ着姿で参拝される家族連れが多く、特に十五日にはぬいぐるみと遊んだり、コリントゲームを楽しみ子供たちで一杯でした。

▼崇敬会大祭 十一月 三日午後二時
 崇敬会大祭は、御首の大神様に無病息災・生業繁栄・家内安全そして子孫繁栄の御守護を戴く、当社崇敬会会員のための年一回の大祭です。

大祭当日は全国各地から多くの会員の御参列をいただき、御出席の皆様には御神前にて一人一人のお名前をご報告申し上げ、最後に金幣申を奉っていただき、厳肅に祭典を終えることが出来ました。

▼新嘗祭 十一月二十三日午後三時

権禰宜 永井 雅和

正月用しめ縄の頒布



当社では、毎年大鳥居を始め拝殿・稻荷神社鳥居等に掲げる注連縄を奉製致しております。その同じ藁を用いまして、神棚用と車両用のしめ縄を調製いたし、皆様方のご家庭にも(お祓いして)お頒ち致します。

奉製の都合上、数量を限定させて頂きまして、ご希望の方は十二月二十日迄に、電話又は社務所に直接お申し込み下さい。

尚、郵送ご希望の方は、郵送料を別途お送り下さい

初もうで

我が国は遠い昔から年の瀬の大晦日には心身を祓い清める神事（身楔祓・大祓等）が各神社に於いて執り行われてまいりました。

これは新しい年を迎える為の神事であり、一年間の色々な罪や穢れを祓い清めて、希望の新年を迎えるのであります。

そして夜ともなりますと、各ご家庭ではお正月を迎える準備で慌ただしく、注連縄や鏡餅等を飾り付け、年越そばを食べて除夜の鐘の音を聞かれることと思えます。



元旦には、先づ氏神様に参拝し、続いて恵方に当たると社寺に参拝され、それからレジャーなど楽しんで、正月三ヶ日を過ごされるのが一般的なパターンではないでしょうか。

皆様方に於かれましては、お正月に参拝される際、晴れ着・洋服と身なりはそれぞれ違っていて、真新しい服装でこころ新たに、今年が良い年でありますように、或いはお金が儲かりますようにとか、家族全員が健康に暮らせますようにと、人によつて置かれていた生活環境や立場が違つたように、様々な願いで参拝されることでしょう。

今や初詣は国民的行事になつておりますがお正月休みを利用して旅行等に出掛けられる予定のある方も、先ず初詣をして頂き、心身共に新たな生命の甦りをお願いされまして、無事にお正月をお過ごし下さい。

1年の初めの例として
終りなき世のめでたさを
松竹たてて門ごとに

祝う今日こそ楽しけれ
当神社では新年を迎え、一月元旦午前0時より皇室の弥栄と団の隆昌・世界平和・氏子崇敬者の繁栄とご多幸をお祈りする、元旦祭を斎行致します。

尚、お正月中は混雑することが予想されますが、御祈祷も平常通り午前九時より午後五時頃まで執り行なつておりますので、是非ご参拝頂きますようお願い申し上げます。

権禰宜 高田 豊彦

本年度崇敬会よりの奉納



御首神社
大幟一対
几帳一対

未廣
稻荷神社
小幟十対

以上あり
がとうござい
ました。

崇敬会入会のご案内

御首神社の御神徳に感謝し、当社を崇敬される方はどなたでも入会出来ますので、御参拝の折社務所にお申し出下さい。尚、郵便にても受付出来ますので、申し込み用紙を御請求頂ければ、お送りさせていただきます。

会員の特典（抜粋）

- 一、神前にて入会報告祭が執り行われます。
- 一、誕生日には特別祈祷が行われ、神符が授与されます。
- 一、春の例大祭、秋の崇敬会大祭には御案内申し上げ、大祭特別祈祷神符及びお供え等が授与されます。
- 一、夏越、年越大祓にはご案内申し上げ、ご祈祷致します。

祭事案内

- ▼年越大祓 十二月三十日 午後三時
- ▼元旦祭 一月一日 午前〇時
- ▼左義長 一月十五日 午前十時



▼浄火祭 二月三日 午前十時
 皆様が奉納された帽子や祈願絵馬、御祈祷の際に御神前に奉って頂きました金幣串や、そのときにお渡し致しました紅白串を、その年の厄男達が心願成就を祈願し、火炉にてお焚き上げる神事です。
 この日に限りまして、ご不要になりました帽子等がございましたら、お焚き上げ頂いても結構ですので、お持ち下さい。

▼祈年祭 二月十五日 午後三時

五穀豊穡を祈ると共に、皇室の御隆昌と国家の安泰又、あらゆる産業の発展と国力の充実を祈願するお祭りであります。

▼御鍬神社例祭 三月十七日 午後三時

正式には鍬山神社と称し、豊受大神（外宮）の御分霊をお祀りしている境内社の一年に一度のお祭りです。

▼例大祭 四月二日 午後三時

年に一度の大祭で、当日は献幣使を迎え、伶人・総代を始め、多数の参拝者でいっぱいになります。そして氏子区域の有志子供達による子供神輿の御巡幸や、打ち磯子の奉納が行われ、境内の特設舞台では演芸などが催されるなど、終日賑わいいますので是非例大祭に多数ご参拝いただきまして、大神様の御神徳を戴いて下さい。

▼南宮神社例祭 五月四日 午後三時

当神社の相殿（本殿の向かって右）にお鎮まりになっていらっしゃる南宮大社の御分霊の金山彦命をお祀りいたしております。

▼お田植え祭 六月 初旬

境内の御神饞田で新嘗祭に献穀する稲の田植えをする神事です。

▼農休み祭 六月二十日 午後三時

田植え作業の後に、無事に田植えが終わった事に感謝を申し上げ、暴風雨に遭わないよう又、様々な病害虫に侵されることなく、無事に実りの秋をむかえられますようにと祈念するお祭りです。
 権禰宜 大島 洋紀

厄除開運祈禱

古来より「大厄には諸々の災難、身体の変調のがれ難し」といわれ、年回りに当る方のみならず御家族にまでも災禍が及び何かとままならぬことが多くなります。前後三年間に渡り忌み慎まなければなりません。御祈祷を受け毎日を平穩に過ごしましょう。

| 平成16年厄年に当る生れ年 | | | | |
|---------------|-----|--------|--------|--------|
| | | 前厄 | 本厄 | 後厄 |
| 男子 | 42歳 | 昭和 39年 | 昭和 38年 | 昭和 37年 |
| | 25歳 | 昭和 56年 | 昭和 55年 | 昭和 54年 |
| 女子 | 33歳 | 昭和 48年 | 昭和 47年 | 昭和 46年 |
| | 19歳 | 昭和 62年 | 昭和 61年 | 昭和 60年 |

御首神社「のぼり」奉納の受付

迎春にあたり、毎年「幟」を新調致しておりますので、ご希望の方はご一報下さい。



御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町一八三の一
 TEL(〇五八四)九一―三七〇〇

ホームページ www.mikubi.or.jp
 Eメール syannusyo@mikubi.or.jp